

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200515
法人名	有限会社 大延建設
事業所名	グループホーム だんらん
所在地	唐津市湊町1133番地3 (電話) 0955-79-1084

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年2月29日	評価確定日	平成 20年3月19日

【情報提供票より】(平成20年1月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低 58 歳	最高 86 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岸川内科医院	寒水歯科診療所
---------	--------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

唐津市の北部に位置し、海と山に囲まれた自然豊かな静かな環境の中にあり、毎日が楽しく、家族・友だちの「だんらん」と名づけられたホームである。会社の理念である「忘己利他(ぼうこりた)」を基に、さらにホームとしての具体的な理念を掲げ、日々の介護に取り組まれている。自分や自分の家族が介護されるようになって、利用したいと思うホーム作りと、安心・安楽な生活の提供をめざして、大きな食卓を囲み、まさに「団欒」を大切にされたグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題について全員で検討し、入居者の意見を可能な限り介護計画に反映できるように取り組まれていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価は、日々の業務の振り返りとしてとらえられ、特に自己評価については職員全員が行ない、管理者がホームの自己評価としてまとめられている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催され、地域での行事の情報を得たり、近況報告等行われている。会議で出された意見については、ホーム内で検討し、日々の業務に反映されている。内容により、様々なメンバーの参加を得て、さらに充実した会議となり、サービスの質の向上が図られる事を期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日頃の様子や出来事など、写真を中心に毎月お便りを発行し、金銭管理報告や請求書も同封している。健康状態などは必要に応じて連絡をとっている。また、一人づつアルバムを作り、家族の来訪時には見てもらい、ホームでの暮らしぶりを分かってもらおう工夫されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学生の訪問や老人会の歌や踊りの訪問、皿回しグループの訪問などがある。また、近くの神社のお祭りに出かけたり、地域の老人会や敬老会にも可能な限り参加している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	[忘己利他] の理念を掲げられ、[職員は職場へ来たら、自分の感情は捨て、ご入居者さまの家族として尽くす事]が浸透している。また、具体的なわかりやすい介護理念も掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで理念にふれているほか、申し送りノートや気づきノートも活用し、理念の徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生の訪問、老人会の歌や踊りの訪問、皿回しグループの訪問などがある。また、近所の神社のお祭りに出かけたり、地域の老人会や敬老会にも可能な限り参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で話し合い、自己評価している。また、昨年の評価で提案されたことを早速改善するなど積極的に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での行事の情報を得たり、近況報告している。が、家族の参加が少ないので、このときに家族会を開催し、参加を増やしたいと思われている。又、マンネリ化してきたので、もう少し深いつながりをするために新たなメンバーを追加したいと、希望されている。	○	内容により、様々なメンバーの参加を得て、さらに充実した会議となり、サービスの質の向上が図られる事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から様々な情報が入ってきている。湊町の福祉合同会議にも参加し、行政との連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の様子や出来事など、写真を中心に毎月お便りを発行し、金銭管理報告や請求書も同封している。健康状態などは必要に応じて連絡をとっている。また、一人づつアルバムを作り、日々の様子がよくわかるように工夫され、家族の来訪時には提示されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時やご家族への連絡の時、意見を伺っている。出された意見等は、すぐに対応を検討し、対応内容についてはお便りの中に掲載し、家族へ報告されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務時間や希望休の対応など、職員の働きやすい環境作りに努められ、職員の変動はほとんどない。新しい職員が加わった時には、早くなじみの関係作りができるように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ管理者は職員を個別に指導している。外部研修は勤務とし、研修後はホーム内で研修報告を行い、全員が周知できるよう取り組まれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	10ヶ所ほどのグループホームとの交流会を持たれている。情報交換をしたり、悩み事の相談をするなど、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望本人や家族には、事前にホームを見学してもらい、可能な限り日中一緒に過ごしてもらい、サービス内容やホームの造り等に納得されたうえで、サービスを利用してもらおうようされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	協力しながら日常の家事を分担し、声かけをしながら入居者にできることはやってもらい、共に支えあう関係がつけられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や趣味などご家族から聞かれ、情報として持っている。日々生活する中で新たな発見があれば追加し、職員で共有している。入居者の意向の把握が困難な時は本人本位で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者やご家族の意向を重視し、全員参加のカンファレンスを行い、さまざまな意見を出し合い、ケア計画を立てられていた。	○	介護計画の作成に係る会議の記録を個別に作り、整備される事が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月職員全員でカンファレンスし、モニタリングし、原則3ヶ月に1回は計画の見直しがされている。また、状況の変化があった時には、随時見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模の特性を活かし、家族に代わり、通院やかかりつけの美容院へ送迎や付き添いなど、必要に応じて柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望される医療機関での受診ができるよう支援されている。また、協力医では24時間の医療が受けられるように連携が図られ、医療ノートを活用して職員間での情報の共有ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期医療については医療機関との連携体制が作られ、夜勤は看護師が対応されている。また、入居の時点で終末期の指針の説明を行ない、その時点での家族の意向を文書で確認されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を害するような言動はされていなかった。また、職員は守秘義務等の誓約書、家族へは契約書の中で個人情報取り扱いを説明されている。入居者の個人情報は事務室のかぎ付きのロッカーに入れ、日誌等も事務所で保管管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の「その日」の気分や体調に合わせて支援している。入居者はそれぞれのペースを大切に、生活リズムをくずさないように支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで同じ食事を食べられ、会話が弾み、楽しい食事となっている。些細な変化を見逃さないように、職員は食事は勤務中と位置付けられている。また、食後の後片付けや茶碗ふきなど入居者が率先して行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者が入りたい時に、いつでも入ることができるように対応されている。拒否がある時には、言葉かけや、時間を変えて入浴を促すなど工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の情報やその後の生活の中で持てる力や楽しみごとを発見し、一人ひとりに応じた支援が行われている。縫い物が上手で好きな方や草とりが上手な方など自由に活動している。また、気分転換の散歩や買い物、外食など入居者の好みに応じて工夫されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に「今」を大切にされている。入居者の希望に応じていつでも外出できるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関はまったく施錠されておらず、いつでも外に出るのは自由で、職員の見配りと気配りで対応されている。危険がないように付き添ったり、ドライブしたり、見守ったりしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時対応マニュアルがあり、ホーム内にも避難経路見取り図が貼ってある。避難訓練が定期的に行われ、入居者が実際に避難できるようにされている。地域の人たちや地元消防団への協力要請も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算をし、栄養バランスがとれた食事を心がけている。刻み方やとろみを付けて食べやすいように工夫し、必要な食事が摂取できるよう支援されている。水分摂取についてはコップの大きさをもとに、大まかな摂取量が把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	むく材を使用した平屋建てのホームは明るく、オープンな設計になっている。季節の花や小物等でさりげなく演出された室内は、不快な臭いや音も無く居心地よく過ごせる。また、テーブルやソファのレイアウトで色々な空間をつくる事ができ、ホーム内での行事も楽しめるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇、家族の写真など、それぞれ、入居者のなじみのものが持ち込まれ、安心して居心地よく過ごされるよう工夫されている。		